



## 2024年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年2月8日  
上場取引所 東

上場会社名 株式会社KADOKAWA  
コード番号 9468 URL <https://group.kadokawa.co.jp/>  
代表者 (役職名) 取締役 代表執行役社長 CEO (氏名) 夏野 剛  
問合せ先責任者 (役職名) IR・広報室長 (氏名) 大上 智之 TEL 03-5216-8212  
四半期報告書提出予定日 2024年2月13日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無：有  
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2024年3月期第3四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第3四半期	187,024	△1.4	13,334	△31.4	13,408	△37.9	6,313	△48.1
2023年3月期第3四半期	189,727	20.4	19,429	51.7	21,588	52.4	12,159	27.1

(注) 包括利益 2024年3月期第3四半期 9,462百万円 (△32.1%) 2023年3月期第3四半期 13,940百万円 (8.6%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益	EBITDA	
	円 銭	円 銭	百万円	%
2024年3月期第3四半期	46.04	46.03	18,122	△23.5
2023年3月期第3四半期	87.22	87.20	23,687	40.1

(注) EBITDA=営業利益+減価償却費+のれん償却費

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年3月期第3四半期	326,222	208,788	57.3	1,391.80
2023年3月期	382,898	223,171	52.9	1,450.27

(参考) 自己資本 2024年3月期第3四半期 186,914百万円 2023年3月期 202,548百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	30.00	30.00
2024年3月期	—	0.00	—	—	—
2024年3月期（予想）	—	—	—	30.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益	EBITDA		
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	円 銭	百万円	%	
通期	252,400	△1.2	15,800	△39.1	15,800	△40.8	7,400	△41.6	55.10	22,600	△29.5

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有  
連結業績予想の修正については、添付資料4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの  
将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(注) 詳細は、添付資料10ページ「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(会計方針の変更)」をご覧ください。

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期3Q	141,784,120株	2023年3月期	141,784,120株
② 期末自己株式数	2024年3月期3Q	7,487,065株	2023年3月期	2,121,343株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期3Q	137,149,652株	2023年3月期3Q	139,412,778株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(会計方針の変更)	10
(四半期連結損益計算書関係)	10
(セグメント情報)	11
(重要な後発事象)	12

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当社グループは、中長期的な成長及び企業価値の向上を図るべく、出版、映像、ゲーム、Webサービス、教育・EdTech事業等において、多彩なポートフォリオから成るIP (Intellectual Property) を安定的に創出し、事業間連携によりIPのLTV (Life Time Value) の最大化を図り、さらに最新のテクノロジーを常に取り入れることで、IPを世界に広く展開する「グローバル・メディアミックス with Technology」を推進することを基本戦略としております。

当第3四半期連結累計期間における業績は、売上高1,870億24百万円（前年同期比1.4%減）、営業利益133億34百万円（前年同期比31.4%減）、経常利益134億8百万円（前年同期比37.9%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益63億13百万円（前年同期比48.1%減）となりました。

当第3四半期連結累計期間における各セグメントの業績は、以下のとおりです。なお、第2四半期連結会計期間より、従来「教育事業」としていた報告セグメントの名称を「教育・EdTech事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。

#### [出版事業]

出版事業では、書籍・雑誌及び電子書籍・電子雑誌の販売、雑誌広告・Web広告の販売、権利許諾等を行っております。当事業においては、メディアミックス展開の重要な源泉として年間5,500タイトル以上の新作を継続的に発行しており、蓄積された豊富な作品アーカイブが当社グループ成長の原動力となっております。

電子書籍・電子雑誌では、メディアミックス作品を中心として自社ストア・他社ストア向け販売ともに好調に推移し増収となりました。

書籍・雑誌では、米国における直近数年間の急激な需要増の反動による書店の発注抑制・返品増が継続したこと等により、海外事業が減収となりました。国内では、新規IP数が増加したものの、市場全体の縮小影響が大きかったこと等により減収となりました。新刊では、『パンどろぼうとほっかほっかー』、『メメンとモリ』（児童書）、『山田さんとLv999の恋をする（7）』、『光が死んだ夏（3）』（コミック）等の販売が売上高に貢献しました。また、ライセンス収入は増収となりました。

費用面では、中長期的な成長を見据えた人員増強、デジタル製造工場・新物流設備への投資等が増加しました。

この結果、当事業の売上高は1,020億61百万円（前年同期比1.4%減）、セグメント利益（営業利益）は56億59百万円（前年同期比42.8%減）となりました。

#### [映像事業]

映像事業では、実写映像及びアニメの企画・製作・配給、映像配信権等の権利許諾、パッケージソフトの販売等を行っております。

アニメでは、『【推しの子】』や『陰の実力者になりたくて!』等、人気タイトルの国内配信向けやゲーム・グッズ向けを中心としたライセンス収入が好調に推移し、力強く成長しました。実写映像では、『わたしの幸せな結婚』の劇場収入及び二次利用収入並びに『首』の劇場収入が貢献するなか、前期に大型の制作受託案件があったことで売上高は横ばい、利益は前期に評価減計上があったことからの反動により大幅改善となりました。

この結果、当事業の売上高は328億24百万円（前年同期比5.6%増）、セグメント利益（営業利益）は36億16百万円（前年同期比225.2%増）となりました。

#### [ゲーム事業]

ゲーム事業では、ゲームソフトウェア及びネットワークゲームの企画・開発・販売、権利許諾等を行っております。

8月に発売した㈱フロム・ソフトウェアの新作『ARMORED CORE VI FIRES OF RUBICON』の国内外の販売が好調に推移したことに加え、6月に発売した㈱スパイク・チュンソフトの新作『超探偵事件簿 レインコード』も売上高に貢献したものの、前期の『ELDEN RING』の業績貢献が大きかった影響により、当事業の売上高は190億78百万円（前年同期比18.5%減）、セグメント利益（営業利益）は59億94百万円（前年同期比33.9%減）となりました。

## 〔Webサービス事業〕

Webサービス事業では、動画コミュニティサービスの運営、各種イベントの企画・運営、モバイルコンテンツの配信等を行っております。

動画コミュニティサービスでは、動画配信サービス「ニコニコ」の月額有料会員（プレミアム会員）が12月末には125万人となり、前年12月末から減少となったことに加え、投資効果に鑑み一部広告関連サービスを縮小させたことにより減収となりました。利益面では、この減収影響に加え、将来の開発スピードアップやITインフラコスト効率を向上させるための戦略投資の増加等により、減益となりました。各種イベントの企画・運営では、黒字化に向けた取り組みとして複数の不採算イベントを中止したことにより減収となりましたが、この取り組みに加え8月開催の『Animelo Summer Live』の貢献もあり、増益となりました。

この結果、当事業の売上高は160億82百万円（前年同期比7.4%減）、セグメント利益（営業利益）は10億67百万円（前年同期比41.3%減）となりました。

## 〔教育・EdTech事業〕

教育・EdTech事業では、専門校運営及びインターネットによる通信制高校であるN高等学校・S高等学校等向けの教育コンテンツ・システム提供等を行っております。

クリエイティブ分野の人材育成スクールを運営する(株)バンタンでは、展開地域拡大の貢献に加え、強化を進めている社会人コースを中心とした生徒数増加により、増収となりました。一方で、利益面では来期開校の新スクールでの生徒獲得のため積極的に広告宣伝費を投下していること等により、減益となりました。

また、(株)ドワンゴによるN高等学校・S高等学校向け事業では、同校の通学コース向け新キャンパス開設等により生徒数が引き続き増加しています。

この結果、当事業の売上高は97億95百万円（前年同期比5.5%増）、セグメント利益（営業利益）は15億58百万円（前年同期比6.8%減）となりました。

## 〔その他事業〕

その他事業では、ところざわサクラタウン等のIP体験施設運営及びキャラクターグッズ等の企画・販売を行うMD事業等を行っております。

IP体験施設運営事業では売上高が横ばいとなったものの、一部事業撤退やコスト適正化の効果により利益が改善しました。MD事業では、フィギュアの売上拡大が好調に推移しセグメント全体の増収をけん引したものの、新規商品ジャンルへの投資等により微減益となりました。また、その他の事業では一部新規サービスの拡大により増収となった一方、当社グループのDX推進を担う機能子会社における減収影響を主因として減益となりました。

この結果、当事業の売上高は145億96百万円（前年同期比15.3%増）、セグメント損失（営業損失）は30億33百万円（前年同期 営業損失27億95百万円）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ①資産、負債、純資産の状況

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べて566億76百万円減少し、3,262億22百万円となりました。これは主に現金及び預金が増加したことによるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べて422億93百万円減少し、1,174億33百万円となりました。これは主に長期借入金を返済したことによるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べて143億83百万円減少し、2,087億88百万円となりました。これは主に親会社株主に帰属する四半期純利益を計上したことにより利益剰余金が増加した一方、配当金の支払いにより利益剰余金が減少し、さらに自己株式の取得により株主資本が減少したことによるものであります。

## ②キャッシュ・フローの状況

営業活動によるキャッシュ・フローは、棚卸資産の増加及び法人税等の支払等があった一方、税金等調整前四半期純利益の計上等により、1億74百万円の収入（前年同期は56億70百万円の収入）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得等により、79億60百万円の支出（前年同期は165億43百万円の支出）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済及び自己株式の取得等により、654億83百万円の支出（前年同期は311億77百万円の収入）となりました。

以上の結果、為替換算差額も含めて718億31百万円の支出となり、現金及び現金同等物の当四半期末残高は、595億58百万円となりました。

当社グループは、事業運営上必要な流動性と資金の源泉を安定的に確保することを基本方針としております。手元流動性につきましては、月次売上高の約2.5か月分を目安に運転資金を確保しており、これに今後の資金需要等を加味した金額を、保持すべき現預金水準として設定しております。

また、2028年3月期までの中期経営計画における財務基本方針として、財務健全性確保と資本効率追求を両立すべく、自己資本比率50～60%程度を今後も維持すべき適正水準として設定するとともに、ROE（自己資本利益率）は中長期的に12%以上を目指すことを掲げております。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向等を踏まえ、2023年5月11日に公表いたしました2024年3月期の業績予想を下記のとおり修正いたしました。

## ①2024年3月期通期連結業績予想数値の修正（2023年4月1日～2024年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益	EBITDA
前回発表予想（A）	百万円 251,150	百万円 17,800	百万円 18,200	百万円 10,900	円 銭 78.05	百万円 24,200
今回発表予想（B）	252,400	15,800	15,800	7,400	55.10	22,600
増減額（B－A）	1,250	△2,000	△2,400	△3,500	△22.94	△1,600
増減率（%）	0.5%	△11.2%	△13.2%	△32.1%	△29.4%	△6.6%
（ご参考）前期実績 （2023年3月期）	255,429	25,931	26,669	12,679	90.91	32,060

## ②連結業績予想修正の理由

当第3四半期連結累計期間において、人気IPのメディアミックス進展によるアニメ事業の伸長を主因として、映像セグメントが好調に進捗していることに加え、ゲームセグメントでは2023年8月に発売した新作『ARMORED CORE VI FIRES OF RUBICON』の販売が当初の想定を上回って推移しております。一方で出版セグメントでは、国内市場が想定以上に縮小したことや新物流設備の稼働初期におけるトラブルによる出荷減影響があったこと、海外事業において過去数年の急激な需要増の反動が継続していること等により、利益面では期初想定を下回って推移しております。

以上の当第3四半期連結累計期間における進捗に加え、第4四半期連結会計期間における教育・EdTech事業での追加投資や一部事業構造改革の可能性を特別損失として織り込み、2024年3月期の通期連結業績予想につきまして、売上高、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益、EBITDAを、上記のとおり修正いたしました。なお、上記の通期連結業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は、今後様々な要因により予想値と異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	167,219	95,377
受取手形	2,123	1,448
売掛金	48,670	55,129
契約資産	2,627	2,130
棚卸資産	25,587	31,274
前払費用	1,973	2,689
預け金	4,716	5,020
その他	11,392	11,749
貸倒引当金	△341	△175
流動資産合計	263,968	204,645
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	38,448	46,492
減価償却累計額	△11,720	△12,989
建物及び構築物 (純額)	26,728	33,503
機械及び装置	4,032	6,902
減価償却累計額	△2,240	△2,815
機械及び装置 (純額)	1,792	4,087
工具、器具及び備品	9,105	9,422
減価償却累計額	△6,304	△6,582
工具、器具及び備品 (純額)	2,801	2,840
土地	26,294	26,287
建設仮勘定	10,283	26
その他	1,174	1,181
減価償却累計額	△500	△627
その他 (純額)	674	553
有形固定資産合計	68,574	67,297
無形固定資産		
ソフトウェア	6,128	8,441
のれん	684	1,793
その他	2,086	2,454
無形固定資産合計	8,899	12,689
投資その他の資産		
投資有価証券	32,538	32,956
退職給付に係る資産	23	36
繰延税金資産	3,209	2,597
保険積立金	1,497	1,630
差入保証金	3,672	3,665
その他	765	945
貸倒引当金	△250	△241
投資その他の資産合計	41,455	41,589
固定資産合計	118,930	121,577
資産合計	382,898	326,222

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2023年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	29,219	34,298
1年内返済予定の長期借入金	40,046	237
未払金	14,474	9,018
未払法人税等	4,010	2,047
契約負債	13,822	16,125
預り金	9,132	8,356
賞与引当金	4,925	3,371
返金負債	5,826	5,918
株式給付引当金	605	338
役員株式給付引当金	2,088	1,203
その他	4,765	5,514
流動負債合計	128,918	86,431
固定負債		
長期借入金	25,219	25,366
繰延税金負債	408	444
退職給付に係る負債	3,531	3,303
その他	1,648	1,887
固定負債合計	30,808	31,002
負債合計	159,727	117,433
純資産の部		
株主資本		
資本金	40,624	40,624
資本剰余金	76,290	76,045
利益剰余金	75,455	77,516
自己株式	△2,587	△21,391
株主資本合計	189,783	172,795
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	9,981	10,359
為替換算調整勘定	2,533	3,603
退職給付に係る調整累計額	250	156
その他の包括利益累計額合計	12,765	14,118
非支配株主持分	20,622	21,874
純資産合計	223,171	208,788
負債純資産合計	382,898	326,222



(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
売上高	189,727	187,024
売上原価	122,509	124,888
売上総利益	67,217	62,136
販売費及び一般管理費	47,787	48,801
営業利益	19,429	13,334
営業外収益		
受取利息	373	968
受取配当金	664	652
持分法による投資利益	525	665
為替差益	581	492
物品売却益	58	65
その他	187	222
営業外収益合計	2,391	3,066
営業外費用		
支払利息	80	48
株式交付費	127	—
寄付金	—	※1 2,900
その他	24	44
営業外費用合計	232	2,992
経常利益	21,588	13,408
特別利益		
固定資産売却益	3	94
投資有価証券売却益	7	8
会員権売却益	39	—
関係会社株式売却益	2	139
特別利益合計	52	242
特別損失		
固定資産売却損	6	1
減損損失	—	50
固定資産除却損	490	—
投資有価証券評価損	28	229
特別調査費用	※2 254	—
解約違約金	407	7
その他	—	26
特別損失合計	1,187	316
税金等調整前四半期純利益	20,453	13,334
法人税等	7,165	5,647
四半期純利益	13,288	7,686
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,128	1,372
親会社株主に帰属する四半期純利益	12,159	6,313

(四半期連結包括利益計算書)

(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
四半期純利益	13,288	7,686
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△1,811	377
為替換算調整勘定	2,522	1,465
退職給付に係る調整額	△92	△95
持分法適用会社に対する持分相当額	32	27
その他の包括利益合計	651	1,775
四半期包括利益	13,940	9,462
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	12,259	7,667
非支配株主に係る四半期包括利益	1,680	1,794

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	20,453	13,334
減価償却費	4,122	4,674
減損損失	—	50
のれん償却額	134	113
固定資産除却損	490	—
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△297	△378
返金負債の増減額 (△は減少)	△186	22
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,877	△1,577
受取利息及び受取配当金	△1,038	△1,621
為替差損益 (△は益)	△393	△344
持分法による投資損益 (△は益)	△525	△665
売上債権及び契約資産の増減額 (△は増加)	△10,831	△4,718
棚卸資産の増減額 (△は増加)	△1,502	△5,213
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,401	4,721
契約負債の増減額 (△は減少)	2,136	2,250
その他	△4,476	△5,520
小計	12,367	5,126
利息及び配当金の受取額	1,385	1,973
利息の支払額	△74	△54
法人税等の支払額	△8,007	△6,871
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,670	174
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
定期預金の純増減額 (△は増加)	△11,594	△230
有形固定資産の取得による支出	△1,902	△2,631
無形固定資産の取得による支出	△3,001	△4,145
投資有価証券の取得による支出	△402	△99
投資有価証券の売却による収入	20	42
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△5	△850
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による収入	46	6
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の売却による収入	—	22
その他	296	△75
投資活動によるキャッシュ・フロー	△16,543	△7,960
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	—	△1
長期借入金の返済による支出	△11	△40,223
自己株式の取得による支出	△3	△20,001
非支配株主からの払込みによる収入	36,272	—
配当金の支払額	△4,239	△4,253
その他	△840	△1,003
財務活動によるキャッシュ・フロー	31,177	△65,483
現金及び現金同等物に係る換算差額	2,270	1,438
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	22,575	△71,831
現金及び現金同等物の期首残高	97,579	131,389
現金及び現金同等物の四半期末残高	120,154	59,558

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社の収益及び費用は、従来、当該在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間の期首より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、当社グループにおける海外比重の増加及び為替相場の動向を踏まえ、一時的な為替相場の変動による期間損益への影響を緩和し、在外子会社の業績をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(四半期連結損益計算書関係)

※1 寄付金

営業外費用に計上した寄付金の内容は、学校法人設立の準備を進めている社団法人に対する支払であります。

※2 特別調査費用

特別損失に計上した特別調査費用の内容は、東京2020オリンピック・パラリンピックのスポンサー選考に係る事案に関するものであります。

## (セグメント情報)

前第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	102,129	30,486	23,336	17,204	9,276	7,294	189,727	—	189,727
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,405	606	80	170	5	5,366	7,635	△7,635	—
計	103,534	31,092	23,416	17,375	9,282	12,661	197,362	△7,635	189,727
セグメント利益又は 損失(△)	9,891	1,111	9,071	1,820	1,672	△2,795	20,772	△1,342	19,429

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、IP体験施設運営及びキャラクターグッズ等の企画・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,342百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,344百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 地域ごとの情報

売上高

(単位:百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
148,828	25,476	10,746	4,676	189,727

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結損益 計算書計上額 (注) 3
	出版	映像	ゲーム	Web サービス	教育・ EdTech				
売上高									
外部顧客への売上高	100,716	32,222	18,965	15,872	9,789	9,457	187,024	—	187,024
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1,345	601	112	209	5	5,138	7,414	△7,414	—
計	102,061	32,824	19,078	16,082	9,795	14,596	194,439	△7,414	187,024
セグメント利益又は 損失(△)	5,659	3,616	5,994	1,067	1,558	△3,033	14,863	△1,528	13,334

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメント等であり、IP体験施設運営及びキャラクターグッズ等の企画・販売等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額△1,528百万円の主な内訳は、セグメント間取引消去5百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△1,534百万円であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

4. 地域ごとの情報

売上高

(単位:百万円)

日本	米国	アジア	その他	合計
156,403	16,937	10,753	2,929	187,024

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第2四半期連結会計期間より、従来「教育事業」としていた報告セグメントの名称を「教育・EdTech事業」に変更しております。この報告セグメントの名称変更がセグメント情報に与える影響はありません。  
なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報についても変更後の名称で記載しております。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。